

消化器内科



食道がん、胃がん、大腸がん、肝臓がん、脾臓がん、胆嚢がん、胆道がんの診断から治療までを一貫して行っています。

【胃カメラ】

胃痛や胃部不快感がある場合はもちろん、40歳以上の方は症状がなくても検診として胃カメラを受けることをお勧めします。特に早期胃がんの場合は症状がないことがほとんどです。

早期胃がんは胃カメラで切除することが可能な場合があり、内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)と言われる方法です。この方法なら胃の粘膜のみを剥離切除するため、胃自体は残り、以前と同じように食事を摂ることができます。



【大腸カメラ】

検診にて便潜血検査が陽性となった場合や、便通の変化(便秘、下痢、便が細いなど)がある場合は是非大腸カメラを受けて下さい。

早期大腸がんであれば内視鏡的粘膜切除術(EMR)という方法で切除することが可能な場合があります。



【腹部エコー】

CTやMRI検査と一緒に肝臓がんを診断します。適応あればラジオ波焼灼術を行っています。

肝がんの主な原因の一つのC型肝炎は、治療薬の開発により大多数が治るようになってきました。当院でも積極的に治療に取り組んでいます。

【超音波内視鏡検査(EUS)】胃カメラの先端に超音波装置を付けたもので、脾臓がん、胆道がんの診断に有用です。より精度の高い診断を目的に行っています。

また、胃カメラを使って、胆道(胆嚢や胆管)・脾管(脾臓の管)に造影剤を注入して、これらの管の状態をレントゲンで見る高度な技術を要する検査(内視鏡的逆行性胆道脾管造影ERCP)とこれを利用した様々な治療を行っています。

正確な診断と適切な治療を心がけて診断しておりますので、心配な方はぜひご相談ください。

